

問題作成の方針と出題のねらい

【社会（追試験）】

出題趣旨

地理的分野で大問3題（小問9題）、歴史的分野で大問3題（小問9題）、公民的分野で大問2題（小問7題）の構成となっている。なお、公民的分野については、試験日が2月であり、受験者が全範囲を学修していないことを考慮しての出題（出題範囲、問題数）となっている。

出題に際しては、中学校学習指導要領に準拠するとともに、教科書を基礎として、その内容と程度を越えない範囲で問題を作成している。とくに、「思考力・判断力」を意識して問題を作成しており、中学校までに学習した「知識・スキル」に加えて、問題中の図表、地図、資料・史料などから読み取った情報をもとに、「思考力・判断力」を活用することで正答に至ることができる問題を組み入れている。また、問題文とそれに付加された会話文や説明文の内容を正しく理解する「読解力」が必要となる問題も出題している。

全国統一試験であり、かつ学校ごとに合否判定を行うことを踏まえて、各小問には基本的な知識を問う難易度の低い問題から「思考力・判断力」を必要とする難易度の高い問題までを配置している。

各設問の出題意図

1

大問1は、学習指導要領の「地理的分野」の内容「B 世界の様々な地域」の「(1) 世界各地の人々の生活と環境」に関する出題である。図1中のAはドイツ、Bはタイ、Cはアメリカ合衆国、Dはブラジルをそれぞれ示している。

問1 この問題は、世界各地の自然環境、特に世界の河川について理解しているかを問うている。説明文中の「流域面積が世界最大」、「ピラニア」という語句は教科書や地図帳にも記載があることから、この説明文にあたる河川が「アマゾン川」であることがわかる。そして、「アマゾン川」の流れる国がブラジルであるという知識が身につけていれば、容易に正答のエを選択できるであろう。

問2 この問題は、農業から見た世界各地の人々の自然および社会的条件、とくに農作物の生産量と輸出货量について理解しているかを問うている。「図2 ある作物の生産量と輸出货量の国別の割合と世界計（2022年）」から、生産量では、1位がCアメリカ合衆国、3位がDブラジル、4位がアルゼンチンというように南北アメリカが上位を占めている。同様に、輸出货量に関しても1位から3位を南北アメリカが占めている。とうもろこしは、主要な穀物としてアメリカ合衆国で大規模な農業が行われていることや、南北アメリカでは多くの国がとうもろこしを主食にしていること、また、

飼料用としても生産されていることなどが知識として身に付いていると、グラフが示す作物はとうもろこしであると答えることができる。また、とうもろこし以外の選択肢について、綿花とバナナはインド、米は中国で生産量が多いということも、正答に導くことができる事柄であろう。正答はアである。

問 3 この問題は、世界の人々の生活について、特に産業別人口割合と国内総生産を理解しているかを問うている。「図3 各国の産業別人口割合（2019年）と国内総生産（GDP）（2020年）」のうち、①はタイ、②はブラジル、③はドイツ、④はアメリカ合衆国を示している。①の国内総生産（GDP）が、①から④のなかで最も低い数値となっていることから、①がタイであることが推察できる。また、タイは農業就業者数が多く、製造業が主要産業になっている。そのことが知識として身に付いていると、第一次産業の占める割合が最も高く、さらに第一次産業と第二次産業の合計の占める割合が他と比べて最も高い①がタイであると導くことができるであろう。正答はイである。

問 4 この問題は、各国間の貿易関係、特に輸出額について理解しているかを問うている。「表 A からDの国からP, Q, R, Sへの輸出額（単位：百万ドル）（2024年）」のうち、Pはカナダ、Qはオーストラリア、Rはスペイン、Sはマレーシアを示している。表について、「から」と「への」という表記は、「から」が品目を送り出す側、すなわち輸出元のことであり、ここではAからDの国を指している。「への」は品目を受け取る側、すなわち輸出先のことであり、ここではPからSの国を指している。Rスペインは、Aドイツからの輸出先のなかで最も輸出額が高くなっている。これは、スペインとドイツの距離が近いことが大きな要因である。また、両国はヨーロッパ連合（EU）に属しているため、容易に輸出ができることも輸出額が高い理由の一つとして挙げられる。また、Cアメリカ合衆国は、世界的に経済面でも影響力があることから、他国と比べて圧倒的に輸出額が高くなっている。4か国のなかでも輸出額が1位、2位であるPとQは、それぞれ隣国であるカナダと、次いで貿易が活発なオーストラリアであると推察できる。各国間の距離や、問題に出てくる各国の国の大きさ（国力）などを総合的に考えることが必要である。思考力と判断力がある問題である。正答はウと判断することができる。

2

大問2は、学習指導要領の「地理的分野」の内容「C 日本の様々な地域」の「(2) 日本の地域的特色と地域区分」および「(3) 日本の諸地域」に関する出題である。図1中のAは北海道、Bは福井県、Cは京都府、Dは鹿児島県をそれぞれ示している。

問 1 この問題は、地場産業や観光資源から見た日本の地域的特色を理解しているかを問うている。説明文について、①京都府、②北海道、③福井県、④鹿児島県を示している。各説明文のキーワードとなる点について、①は、京都府の地場産業や特産物、さらに、観光地として名高い名所について述べている。②は、北海道の特徴である冬に雪が多いという点に触れたことや、水産物や郷土料理もキーワードとして入れている。③は、恐竜の化石が多く発見されるという福井県に特

化した出来事、鯖江の眼鏡フレームの生産が多いこと、地場産業について述べている。④は、鹿児島県の火山に関する特色を説明している。各説明文のキーワードから、③が福井県であることがわかる。容易に正答のイを導き出すことができるであろう。

問 2 この問題は、日本の交通による国内各地の結び付きを理解しているかを問うている。交通に関する過去の問題では、東京都と都道府県との関係性を理解する問題が多く、東京を軸において出題する傾向にあった。そのため、ここでは 2025 年に万博を開催した大阪府を軸に出題した。「表各都道府県と大阪府とを結ぶ交通機関の利用者数 (2023 年度) (単位: 万人)」の I, II, III にあてはまるそれぞれの交通機関は、I は鉄道、II は航空機、III は自動車である。A 北海道から大阪までは直線距離で 1000km 程度と長いので、航空機が大半を占める。B 福井県からは、特急など鉄道の利用者が盛んである。C 京都府からも福井県と同様、鉄道利用者が最も多いが、大阪府との距離が近く、京都と大阪間にさまざまな鉄道会社が参入していることから、鉄道利用者数は福井県と比べて圧倒的に多い。また、京都府からは自動車を利用して来る人も多い。D 鹿児島県からは航空機の利用者が最も多いが、大阪府と鹿児島県とを結ぶ新幹線が全線開通しているため、新幹線を利用して大阪へ来る人もいる。また、「その他」は旅客船を示しており、一定数の利用者がいる。正答はエである。

問 3 この問題は、日本の産業のうち農業について、特に畜産業の地域的特色を理解しているかを問うている。P は乳牛、Q は豚、X は A (北海道)、Y は D (鹿児島県) を示している。「図 2 家畜の飼育頭数における都道府県別の割合と全国の飼育頭数 (2021 年)」から、豚の飼育は南九州が中心であるが、全国的にも行われていることがわかる。一方、乳製品の生産は、X 北海道が圧倒的に多いことから、P のグラフは乳牛の飼育頭数を示し、全体の 60% を占めているのは X 北海道であることがわかる。Q 豚については、飼育頭数が 929 万頭であることからわかるように、乳牛や肉牛に比べて多く飼育されている。さらに、Y 鹿児島県、宮崎県が飼育頭数 1 位、2 位となっている。南九州で畜産が盛んに行われてきたことは、教科書にも取り上げられる内容である。正答はウである。

3

大問 3 は、学習指導要領の「地理的分野」の内容「C 日本の様々な地域」の「(1) 地域調査の手法」の「地形図の読図」に関する出題である。

問 1 この問題は、等高線から土地の起伏を読み取ることができるかを問うている。等高線の読み取りからその場所の高低や地形の様子を理解する技能は、自然災害の発生リスクの把握にも役立つものである。図 1 は、「地理院地図」から等高線などの地形に関する情報を抜き出して、縮尺を変更したものである。また、図 2 は、図 1 と同じ地域の「地理院地図」の起伏を 3 次元表示したものである。ただし、高さ方向の倍率を 2 倍にしてある。図 2 の中央の左右にひろがる平坦地と、その平坦地から図の右上方向に山と谷が交互に延びている様子から、図 2 は、図 1 を西の上空から東の方角を見たものということが判断できる。

問 2 この問題は、地図記号を正しく読み取ることができるかを問うている。図3は、「地理院地図」から図1の一部を拡大して、施設に関する地図記号と道路、鉄道を抜き出したものである。解答に必要な情報のみを示し、拡大することで、読図しやすくなるように配慮している。図3の範囲に「図書館」は1か所しかないので、アは誤りである。図3の範囲に「老人ホーム」は1か所しかないので、イは誤りである。図3の範囲にある「市役所」から見て北の方角に「消防署」があるので、ウが正答となる。図3の範囲にある「裁判所」から見て「警察署」は西の方角ではなく、北北東の方角にあるので、エは誤りである。なお、「裁判所」の地図記号を知らなくても、「警察署」の東の方角にあるのは「老人ホーム」と「寺院」であるので、エが誤りであることは判断できる。

4

大問4は、学習指導要領の「歴史的分野」の内容「A 歴史との対話」の「(1) 私たちと歴史」のなかの「(イ) 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。」と「B 近世までの日本とアジア」の「(1) 古代までの日本」で身に付けるべき知識に挙げられている「律令国家の形成」に関する出題である。

問 1 この問題は、飛鳥時代の政治に関する問題である。正答はウである。資料中の「和を貴び…」や「深く三宝を尊敬せよ」などの条文、問題文中の「仏教や儒教の考え方をとりいれ、天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示したものを手がかりにすれば、その法は「十七条の憲法」、作成にかかわった人物名は聖徳太子（厩戸皇子、厩戸王）と導き出せる。ちなみに、厩戸の読みは「うまやど」のほかに「うまやと」がある。一方、「御成敗式目」は鎌倉幕府に仕える武士に対する法であり、また、この法の作成にかかわったのは天武天皇ではない。なお、この大問の最初に掲げた法の条文を「史料」とせず「資料 ある時代に定められた法」とし、「史料名」ではなく、「法名」を問うたのは、「史料名」とした場合、受験生がこの「法」の出典である『日本書紀』を想起してしまい、「十七条の憲法」を含む選択肢を選ぶことができなくなることを危惧したためである。

問 2 この問題は、飛鳥時代の国際状況に関する問題で、日本（倭）が最もその動向を注視していた中国について問うている。正答はアである。アは「南北に分かれていた中国を統一した」や「東アジアの国々からは国交を求める使節が送られた」、「30年ほどで滅亡した」という記述から隋についての説明であることがわかる。この隋に送られた使節は日本では遣隋使といわれ、聖徳太子の活躍した頃のことであることから正答が導き出せる。イは、「日本はこの王朝と正式な国交を結ばなかった」や「この国の商人との貿易の利益に着目した平氏は航路や港を整備した」という記述から宋についての説明であることがわかる。ウは、「漢民族によって建国され」や「中国沿岸で海賊行為や密貿易をしている倭寇の取り締りを日本に求めた」という記述から明についての説明であることがわかる。エは、「はじめて中国を統一した」や「各地で異なっていた文字や貨幣などの統一を図り、皇帝を頂点とする中央集権体制を実現した」、「統一後15年ほどで滅亡した」とい

う記述から秦についての説明であることがわかる。

5

大問5は、学習指導要領の「歴史的分野」の内容「A 歴史との対話」の「(1) 私たちと歴史」のなかの「(イ) 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。」と「B 近世までの日本とアジア」の「(2) 中世の日本」で身に付けるべき知識について挙げられている「鎌倉仏教」に関連する出題である。

問1 この問題は、鎌倉仏教を代表する、ある教えを広めた人物とその師が誰かを問うている。史料1と説明文を読み解き、「南無阿弥陀仏」や「念仏」などの教えの内容から導き出すことができる。正答はエである。親鸞は浄土真宗を開き、その師である法然は浄土宗を開いた。ちなみに、史料1『歎異抄』(たんにしょう)は親鸞の弟子唯円著である。説明文中にある「他力本願」、「悪人正機」等の親鸞の教えが伝えられている。他の選択肢にある道元は曹洞宗、栄西は臨済宗を開いた人物である。これらの宗派は禅宗といわれるが、親鸞はこれを「自力作善」と位置づけ、末法の「凡夫」にはふさわしくない教えとして退けている。

問2 この問題も同じく鎌倉仏教に関する問題である。親鸞の後に現れた日蓮の活動について問うている。正答はアである。「南無妙法蓮華経」、「題目」というキーワードから導き出せる。それ以外の選択肢は、時代の異なる人物や集団の活動についての内容である。イは空海(平安時代)、ウはイエズス会の宣教師(室町時代から安土桃山時代)、エは雪舟(室町時代)について述べている。

問3 この問題は、室町時代後期・戦国時代の宗教と政治に関する問題である。鎌倉仏教のうち、親鸞を開祖とする浄土真宗が人々に広まり、その後、門徒たちが中心となって守護大名を打倒し、加賀国を実質的に支配した加賀の一向一揆について問うている。正答はイである。史料2にある加賀国の「守護」の「富樫」氏(嫡流)が「長享2年(1488年)6月」に滅亡したこと、史料3にある「百姓が支配する国のようにになっている」こと、説明文中にある「室町時代後期には近畿・東海・北陸地方を中心に一大勢力を築いたこと、『百姓』が守護を自ら選び100年の間、自治をおこなった」ことなどから導き出せる。選択肢にある山城国(南側の三郡)で起こった一揆は、土一揆ではなく、国一揆である。地域の武士(国人)の一揆であるのでそのようにいわれるが、実は百姓の一揆もこれに加わったので、国の人々が全て加わったという意味で惣国一揆(そうこくいっき)ともいわれる。一向一揆も、浄土真宗の門徒を中心とするが、地域の武士や寺社勢力もそのなかに含みこんでいる点から、惣国一揆の一種と考えるべきであろう。引用した史料のうち、史料2『蔭涼軒日録』(いんりょうけんにちろく/おんりょうけんにちろく)は相国寺鹿苑院(ろくおんいん)内の蔭涼軒主が残した記録であり、史料3『実悟記拾遺』は浄土真宗本願寺派八代法主蓮如の子の実悟が残した記録の補遺である。それぞれ加賀の一向一揆について伝えている。

大問6は、学習指導要領の「歴史的分野」の内容「C 近現代の日本と世界」の「(1) 近代の日本と世界」に関する出題である。欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、教科書に掲載されているビゴアの風刺画「魚釣り遊び」(1887年)を題材に、東アジア近代史上の出来事と日本国内の出来事を関連付けて理解しているかを問う。良く知られている風刺画なので、描かれている人物がどの国を表しているのかについて、確実な知識を求めたい。

次年度以降の受験生にも、教科書の資料の読み解き、本文の理解など着実な学習を心がけ、高専入学後の学びに活かしてほしい。

問1 この問題は、この風刺画が描かれた19世紀後半に起こった出来事を問うている。同じころの日本で起こった出来事、日清戦争前夜の国際関係を踏まえて国内の近代化を進めていることをつなげながら、相対的に近代の東アジアの国際関係をとらえたい。出来事の起こった順は、ア：異国船打払令が出された、ウ：大日本帝国憲法が公布された、エ：男子普通選挙がはじまった、イ：国際連合に加盟したとなる。

問2 この問題は、風刺画から朝鮮をめぐる起こった日本と清の間の戦争であることを理解し、参戦しなかったが利害関係を持つ存在としてのロシアの存在も意識しながら読み取りができるかを問うている。A：ロシア(橋の上で日本と清の魚釣りを眺めている、帽子にRUSSIEと書かれている人物。RUSSIEはフランス語でロシアを意味する)、B：日本(ちょんまげに紋付を着て下駄ばきの侍風の人物)、C：清(帽子をかぶり、ゆったりした服を着た人物。右手で水中にえさのようなものをまいている)、D：朝鮮(魚として描かれ、胴体にCoréeと書かれている。Coréeはフランス語で朝鮮を意味する)。絵の中では、日本と清になぞらえられた人物たちが魚釣りをしている。魚は朝鮮を示している。清は魚にえさをまいて引き寄せようとしている。それを離れた橋の上から眺め、魚に視線を向けているのがロシアになぞらえられた人物である。朝鮮を支配下に入れようと日清両国が対立している様子と、中国東北部から朝鮮半島への進出を狙うロシアの動向が風刺されている。なじみがあり知っているつもりのもので、AからDと記号がつけられ、出来事と関連付けられると知識があいまいになる受験生もいるのではないかと考え、確実な理解を求める基礎的な出題である。ア：戦争になったのは、図中のAとCであるというのは、ロシアと清は戦争をしていないので誤りである。イ：戦争になったのは、図中のBとCであるというのは、日本と清なので正しい。ウ：戦争のきっかけとなったのは、図中のCでおこった農民反乱であるというのは、朝鮮での甲午農民戦争がきっかけなので誤りである。エ：戦争の終結後に図中のDは、Bとの間に対等な条約を結んだというのは、日本と朝鮮の間にはそのような条約は結ばれていないので誤りである。

問3 この問題は、19世紀後半から第二次世界大戦の終了までに、風刺画に描かれた国で起こった出来事と、東アジアでの出来事としての流れを理解しているかを問うている。風刺画中のAからDの国を確実に理解したうえで、問題で問われている時期の重要な事件を想起できることを期待している。A：ロシアでは第一次世界大戦末期に食料や物資の深刻な不足から民衆の不満が高まり革命が起こった。皇帝は退位して臨時政府が成立したが、戦争は続けられたため、レーニンらが

武力で臨時政府を倒して社会主義政府を立てた。なお、ロシア革命で「社会主義国家を誕生させました。」と記述している教科書と「当面の間、国際社会では国家として認められませんでした。」と記述している教科書があるため、この問題では「社会主義国家」とはしなかった。また、教科書によって「政権」としているものと、「政府」としているものがあったが、中学生の知識ではこの二つの違いは判別しがたいと考え、今回の問いにおいては「政府」という表現を採用した。

B：日本が第一次世界大戦後にできた国際連盟を脱退するのは、1931年の満洲事変で国際的な非難を浴びた後である。C：文中の革命は清の辛亥革命(1911年)を指している。革命がおり、皇帝が退位したという点ではロシアと共通するが、中国が社会主義国家になったのは、第二次世界大戦後の中華人民共和国の成立以降で、問いで設定されている時期外の出来事であり、判別は可能である。日本および近隣国の重大な政治的出来事を、世界史の大きな流れを把握したうえで整理して解答を求めたい。風刺画のAからDの各国が正確にわかっているならば、そこから事件を想起できる。A、B、C各国を確実にし、第一次世界大戦前後の出来事を手掛かりにして解くことができる。世界史は同じ時期の複数の国での出来事が相互に関連しあっていることに面白さと難しさがある。とりわけ近代以降は、世界全体の出来事のつながりを意識的に整理しながら学習してほしい。問2と問3を通じて、19世紀末から20世紀前半の東アジアの国際関係史を概観できる。

問4 この問題は、1919年3月1日に日本の植民地であった朝鮮での独立運動を理解しているかを問うている。風刺画内のDが朝鮮であることがわかっているならば易しい問題といえる。資料は三・一独立運動の中で発表された「独立宣言書」の一部であり、教科書のなかには掲載しているものもある。ア：三民主義を唱えて革命運動の指導者になった孫文は、中国の人物である。イ：ガンディーの指導した「非暴力・不服従」の運動は、インドで起こったものである。ウ：中国での出来事を想定しての選択肢であり、Dの朝鮮ではイギリスの艦隊による攻撃は起こっていない。

7

大問7では、中学生が日本の選挙制度について調べて考察した場面を設定し、その現状と課題、及び課題の解決に向けて考察したことについて問うものである。学習指導要領における目標(1)「民主主義、民主政治の意義・・・について、個人と社会の関わりを中心に理解を深める」こと、目標(2)「現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力」を身に付けること、目標(3)「現代の社会的事象について、・・・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として・・・の自覚などを深める」ことを目指すものとして作問した。高専在学中に選挙権が与えられ、公正な社会をつくる主体として自らを磨いていく受験生に、政治参加についての基本的な知識を得たりや課題解決の糸口を考えてもらいたい。

問1 衆議院の選挙制度についての基本的知識についての設問である。内容は、学習指導要領の公民的分野C(2)ア(ア)「我が国の民主政治の仕組みのあらまし」の知識及び理解についてのものである。正答はエである。衆議院議員総選挙の選挙区制では、原則として小選挙区制が採用されている。また、比例代表制ではドント式により議席が配分される。ただし、小選挙区と比例代表の重複立候補が認められている小選挙区比例代表並立制のため、小選挙区制を採用していても一つの

選挙区から複数名が当選することもあるので、選択肢には「原則として」という語句を付した。

問 2 比例代表制の特徴についての理解とともに、架空の選挙区選挙におけるいわゆる「一票の格差」について、計算してその大小について考察・判断する設問である。学習指導要領の公民的分野C(2)ア(ア)に加えて、イ(ア)「民主政治の推進と、・・・選挙など国民の政治参加との関連について」考察し表現する設問である。選挙制度における大きな課題である「一票の格差」について、具体的な事例を踏まえて理解し判断する力量を測ることをねらいとしている。正答は力である。まず、比例代表制の特徴として、議席獲得につながらない票である死票をなるべく少なくすることができ、新たな政党の出現が比較的容易で多くの政党が議席を獲得しやすいということが挙げられるため、に当てはまるのはQとなる。また、に当てはまる一票の価値については、選挙区Aが $550 \div 5 = 110$ 、Bは $240 \div 3 = 80$ 、Cは $100 \div 2 = 50$ で、議員定数一人に対する有権者数が最も少ないのはCとなる。

問 3 選挙制度の課題を解決するための方策の一つである「マジョリティ・ジャッジメント」を取り上げ、架空の事例に基づいて計算し考察する設問である。学習指導要領の公民的分野C(2)ア(ア)及びC(2)ア、及び内容の取り扱い(1)ウ「課題の解決に向けて習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを説明」すること、「資料を読み取らせて解釈させたり、・・・考えを深めさせたりする」ことを踏まえたものである。なお、「マジョリティ・ジャッジメント」は、経済学における社会的選択理論で唱えられている方法の一つで、企業組織などの意思決定において活用・応用されているものである。本来ならば投票者が6段階で絶対評価点をつけ、その中央値で順位を決めるものであるが、近年では大学入試問題などでさまざまな計算方法や評価点のつけ方を用いて作問されている例があり、本問では中学生にも解きやすい方法にあらためて出題した。表1の例をよく読んで解答してもらいたい。正答は力である。例にならって計算すると、候補者Kは21点、Lは20点、Mは28点、Nは22点となり、評価点の上位2名は候補者MとNになる。

大問8は、財やサービスや希少性など、経済の基礎概念の理解度を問うている。学習指導要領の「公民的分野」の内容「B 私たちと経済」の「(1) 市場の働きと経済」を中心として出題した。また、これらに関連する事項として、「D 私たちと国際社会の諸課題」で示されている、循環型社会に向けた取り組みなど、環境保全に関する内容も取り扱った。

学習指導要領では、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、協調、持続可能性に着目している。その上で、市場経済の基本的な考え方や市場における価格の決めり方や資源配分について理解することを求めている。これらの観点を踏まえて出題した。

問 1 この問題では、希少性概念を問うている。中学校社会科公民分野の教科書では、表現に多少の違いはあるが、希少性は「人間の限りない欲求をかなえるだけの資源（財やサービス）が不足している状態」と説明されている。教科書でも希少性を説明する際に空気を例に挙げており、地球

上に大量に存在する空気には希少性がなく、価格が設定されず、無償入手が可能である旨、記述されている。空気も食塩も人間の生存に欠かせない高い価値ある重要な物質であるが、現状では、人間の生活圏では、清浄な空気を無償で入手することは十分可能である。一方、食塩の場合は、商品化された食塩を有償で購入することが大方であろう。ゆえに、食塩は選択肢として妥当ではない。これらの点を踏まえると、A希少性とB空気の組み合わせのAが正答となる。

問 2 この問題は、サービスの例として最も適当なものを選ぶ問題であり、有形財（物財）か、物理的に形を持たない無形財（サービス）のいずれかを見分ける問題である。教科書には、形のある「財」と形の無い「サービス」と記述されている。「歯科医師による虫歯の治療」のみが形の無い「サービス」に該当するので、イが正答となる。

問 3 この問題は、価格設定を行う際、国による認可が必要な例として最も適当なものを選ぶ問題である。タクシーの運賃は、国土交通大臣の認可を受けなければならないと定められている。よって、正答はアである。教科書でも公共料金についての説明がなされており、政府による認可が必要な例として、タクシー運賃が示されている。

問 4 この問題は、「ごみを適正に廃棄すること」や「不要となったものを再び活用すること」に関する説明として「適当でないもの」を選ぶ問題である。卒業後に、モノづくりを担う高専生に、環境問題や資源問題、循環型社会をいかに構築していくか、社会科で学んだ知識をいかに活かしていくか、を意識してもらいたいのがゆえの出題である。アは正しい行いであり、適当であるので、今回の問題の正答ではない。産業廃棄物を処理する際、廃棄物（bads）は依頼者から処理業者に移動することになるが、処理代金も同方向に依頼者から処理業者に移動することになるので、需要者側のチェックが働きにくい。そのため、処理業者の実際の処理が契約通りに行われるよう（低いレベルで行われないよう）、事前に確認しておくことが望ましいのである。ちなみに、通常の商品（goods）であれば、商品は販売者から購入者へ、購入代金は購入者から販売者に渡ることになるので、基本的に商品についてのチェック機能は働くことになる。廃棄物を有用な資源として再利用することを示したイは、もちろん正しい記述である。ペットボトルはポリエチレンテレフタレート（PET）樹脂を用いた容器であり、使用済みのペットボトルはポリエステル繊維の原料として活用でき、資源として再生することで石油資源の節減にも貢献している。ゆえに、今回の問題の正答ではない。エで示された事柄は、いずれも環境省の政策として実際に推進されている。リデュースとは不要な包装・容器や使い捨て商品をできるだけ使わないこと、リユースとは使えるものを何度も使用することである。ゆえに、今回の問題の正答ではない。「適当でない」のはウである。2001年4月施行の家電リサイクル法の規定により、エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機の4種の家電製品のリサイクルが推進されている。消費者は、これら4種の家電製品を廃棄する場合、リサイクル料金はもちろん、処理にともなう収集料金・運搬料金を負担しなければならない。処理する際には、該当家電製品の販売店（新規の代替製品を購入する店舗など）や、家電リサイクル法に基づく廃棄物回収業者などに引き取りを依頼する必要がある。ウの記述のように「ごみ集積場に持っていけば、粗大ごみとして無償で廃棄できる」とは決してない。ゆえに、今回の問題の正答はウである。